

弊社所属115系電車・S6編成について

—信州を駆け巡った42年間—

新型車両SR1系の運行開始に伴い、S6編成は2020年7月をもって営業運転を終えることとなりました。お客さまには、長きにわたりご利用いただきましたことを心より御礼申し上げます。

先日、当該編成の引退についてお知らせいたしましたところ、通勤や通学でご利用になられていた地元の方々や全国の鉄道ファンの方々など、数多くの皆さまから労いのお言葉や心温まるメッセージを頂きました。あらためて感謝申し上げますと共に、S6編成の来歴を皆さまにも振り返っていただけますと幸いです。



S6編成 外観



S6編成車内

上2点 撮影:加藤和毅 氏
下2点 撮影:弊社地域連携室



S6編成 座席



S6編成妻面
銘板

弊社所属115系電車・S6編成について



↑S6編成 篠ノ井方 先頭車クハ115-1002



↑S6編成 中間車モハ114-1003

↓S6編成 軽井沢方 先頭車クモハ115-1002



撮影：加藤和毅 氏

S6編成・プロフィールの特徴

- ・115系1000番台電車として初めて落成した編成のひとつ
- ・製造後ずっと長野県内を中心に活躍した生粋の「信州っ子」
- ・北は柏崎(新潟)、南は甲府(山梨)、東は高崎(群馬)、西は中津川(岐阜)まで走行
- ・総走行期間は42年6ヶ月
- ・総走行距離は5,285,195km
(地球 約132周分)・・・2020年6月末時点
- ・弊社所属車両として最も古く、かつ初めてのリニューアル工事(2001年)を実施した編成でもある

－528万キロの旅路・・・5県を結ぶ－

弊社所属の115系1000番台電車は、国鉄が長野地区の旧形電車置き換えを目的として、1977(昭和52)年から製造し運行されたものです。115系(いわゆる0番台)の製造初年は1964(昭和39)年ですが、1000番台は長野県をはじめとする寒冷・豪雪地域に投入するに当たり、耐寒耐雪機能を強化したグループ(区分台)として登場しました。(後年、長野県以外の路線にも配属されることとなりますが、いわば「信州を走る使命を与えられた115系」であった、とも評されています。)なお、S6編成は先頭車の車番が2番目(1002)ではありますが、同1番目(1001)と一緒に落成しており、記念すべき115系1000番代の第一陣の車両となります。

配属先の長野鉄道管理局松本運転所や長野第一運転所を中心に、中央本線の甲府～塩尻～中津川間、篠ノ井線全区間(塩尻～松本～篠ノ井)、大糸線の松本～南小谷間、信越本線の高崎～長野～直江津～柏崎間を走行し、製造からこれまで約528万キロ、地球132周分の距離を42年6ヶ月をかけて走り続けました。

－S6編成の所属履歴－

- 1977.12.15 長野鉄道管理局松本運転所へ新製配置。
- 1986.11. 1 長野第一運転所へ転属。
- 1990. 3.10 JR東日本長野支社松本運転所へ転属。その後1997年5月に長野総合車両所へ差替転属
- 1997.10. 1 しなの鉄道所属となる。

本広報資料の作成に当たっては、イカロス出版株式会社「季刊J-train」編集部および同誌の執筆や撮影で著名な前納浩一氏と加藤和毅氏のご厚意とご協力を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。